

国連・国際機関と、一九九四年から十二年間開催された「おかやま国際貢献NGOサミット」との連携なしにAMD Aの世界的发展はなかった。

外務省民間援助連携室、旧郵政省国際ボランティア貯金推進室、岡山県、岡山、倉敷岡市、旧加茂川町、旧哲多町、旧和氣町、そして多くの企業や個人の支援があった。開発と緊急救援の国際NGOネットワーク

AMD A代表

菅波 茂

ク（AMD A担当）、人道援助宗教NGOネットワーク（西村美智雄委員長、黒住宗道事務局長）、国際環境NGO（ユネスコ担当）などが誕生。岡山県国際貢献推進条例や倉敷市国際平和推進条例も成果といえる。「西のジュネーブ、東の岡山」は今や活用次第で世界に誇れる社会インフラである。

推進力はAMD A、岡山ユネスコ協会（三

宅正勝会長、橋本徹決事務局長）、そして日本ユニセフ協会岡山県支部（長野洋子会長、福武れい子事務局長）だった。加えて、アフリカ・ソマリアに職員を派遣し、日本初の国際貢献推進条例を制定した旧加茂川町の片山舜平氏、国際貢献大学の創設と運営に尽力された旧哲多町長の竹元武士氏、おかやま国際貢献NGOサミットの仕事局長を務め、その出版を進めている藤木茂彦氏にも感謝のみである。

賢者は歴史に学ぶ。明治維新は海外との密貿易によって軍資金調達をした薩摩と長州が実現した。時の政権による御朱印船方式が島国日本の生存戦略だった。加えて、幕末に各藩が競って優秀な人材を海外留学させた事実も無視できない。

東京と地方の格差拡大は激化する。地方分権と地方主権の違いは、海外ネットワークの有無にある。「西のジュネーブ、東の岡山」が二十一世紀の岡山の生存戦略に発展すれば幸いである。